

# プロ BUH!

プロ  
Vol.  
11  
2014年4月号



人生で  
フレンチブルドッグに  
出会えた  
強運なあなたへ

特集

通じあうために

コミュニケーション&トレーニングの秘訣

いま、何よりも知りたいこと。それは愛プロの気持ち。  
コミュニケーション&トレーニングを通じて、こころを交わらせることができるのなら。  
ドッグトレーナー、ドッグカウンセラー、そして仲間たちが語る、フレンチブルドッグのハート。  
パイドの柄のようにくつきりと、あなたが本当の意味でその子と通じあうきっかけになりますように。



● SPECIAL ISSUE  
フレンチブルドッグ  
のいる生活

プロオーナーそれぞれのしあわせな毎日

## 愛犬から見て、 とても素敵なお人。

「フレンチブルを飼っていると時々何を考えているのか分からなくなるんです。それにもまして、この子にどう思われているんだろうとか、常に気になっている飼主さんが多いのですが。」

「そうですね。周囲の人からしつけについてどう思われようと大丈夫。それよりも、『愛犬にどう思われているかが心配！』ってよく聞きますよね。例えば、家でソファアに乗らないルールを作ったとします。それでソファアに乗った犬は払うというトレーニングをしますよね。そうすると『こんなことをして、うちの子に嫌われないでしょうか』『私はどう思われていますか？』と質問されます。そんなとき私は『何とも思っていないでしょう』と答えちゃいますけど(笑)」

「川野先生もワンコを2頭飼っていらつしゃいますけど、そんな気持ちにはなりませんか？」

「私の場合、正直気になりませんね。犬にとって、好きとか嫌いという感情は瞬間的なもので、永遠ではないんですよ。多少の印象の良し悪しはあると思いますが、かなりいい加減なものだと思います。」

「そんなにコロコロとかわる感情を気にして、顔色をうかがって生活するのは、飼主としても辛いですからね」

「では、どういう心構えで接すれば良いのでしょうか？」

「飼主さんが『私はアナタとこうしたい』という自分の意思を持つことです。相手が自分のことをどう思っているかより、自分がこの子を好きなんだという強い気持ちがあるほうが、自信をもつて行動できると思いませんか？『嫌われないかしら？』とおっかなびっくりトレーニングする飼主さんより、『私がやりたいんだから、一緒にやろうよ』と先導していく飼主さんのほうが、犬から見ても、頼もしく思えるものですよ。そういう積み重ねで、『犬と通じあう』ことができるんです」

「いいですね。『通じあう』感覚！『好きと思われている』と感ぜなくても、通じあっている感覚は欲しいです。」

「犬の気持ちを知るには、ボディランゲージを勉強するなどの方法がありますが、それにはかなり勉強を積まないと難しい。ですが、

具体的に何を語りかけてきているか分からなくても、ただ隣にいただけで、顔は正面を向いているも身体全体のアテンションが飼主さんの方に向いているなど、つながっているなと思う瞬間がありますよね」

「その瞬間をより多く感じるためには、やはりコミュニケーションが大切なんですよ。」

「そうですね。犬はそもそも猟犬として人間と一緒に仕事をしてきた生き物ですから、人間とコミュニケーションをとりたいがる傾向にあります。それが社会性のある動物だといわれるゆえんです。だから、ただご飯をあげて散歩に連れて行くだけの生活では、そう簡単に信頼関係を築けません。ボール投げをするとか、犬によつてはオビディエンスのトレーニングをするなど、『人間が指示を出して、それに対して犬が忠実に行動する』というコミュニケーションが大切なんです」

「日常生活のちょっとした工夫でできますか？」

「はい。洗濯物を取り込むのを一緒にやろうと誘ってみたり、チャイムが鳴っても吠えないで玄関ま

フレンチブルドッグと生活する上で、コミュニケーションをいかにとるかを悩むことはありませんか？  
すごく可愛がっているし、ときに強くしかったりするけれど、本当にこれでいいのだろうか？  
飼主さんは、そんな試行錯誤の連続なんじゃないでしょうか。  
今回は「しつけ」にもまして、その根本にある「ブヒとのコミュニケーション」について、  
いま一度マジメに考えてみましょう。愛するブヒと「通じあう」ためのコミュニケーション術を、  
おなじみ「カワノe-ドッグ」の川野梯子トレーナーが教えてくれました！

取材・文●山崎永美子

相手が自分のことをどう思っているかより、  
自分がこの子を好きなんだという強い気持ちがあるほうが、  
自信をもって行動できると思いませんか？

で一緒にお客様を迎えに行こうとか、日常の中で仕事を与えるチャンスは転がっています。家庭犬の場合、いわゆる『仕事』がないですから、飼い主さんが積極的に機会を作ってあげて、一緒に行動し  
てあげることがコミュニケーションになるんです」

川野さんから見て、コミュニケーションをとっているようで、不足しているなと感じる飼い主さんはいるものですか？

「犬が飼い主さんに噛みついたり、すぐに怒ったりするのは、残念ながらコミュニケーション不足の現れです。飼い主さんどうコミュニケーションをとるべきなのか、わからないのだと思います。だって犬は人間と違って会話でコミュニケーションをするわけじゃないですからね」

でもよく『この子、人間の言葉がわかるんです』という飼い主さんいますけど？

「そうですね。飼い主さんが穏やかな気持ちで話していれば、犬も安心した気持ちで飼い主さんを見るでしょう。その間には良い空気が流れていると思います。でも、実際に犬が言葉を分かっているか

というと、それはないですね(笑)。犬にとって『会話』というコミュニケーションはないんです」

残念！でも言葉が分かると錯覚するようなときは、飼い主さんと愛ブヒの関係が良好だということですよ。では人間が会話でコミュニケーションをとるように、犬は何をツールにコミュニケーションをはかるのでしょうか？

「吠え声などもひとつですが、主に全身を使ったボディランゲージです。例えば、『前を通ります』というときは、舌をペロペロさせながら通過します。人間が撫でてあげているときにペロペロしているときは『あんまり接近しないでね』という意思表示です」

ボディランゲージは、どの犬でも共通なんですか？

「基本的に共通ですが、人間の語学習得と同じで、スキルはあります。犬同士のコミュニケーションが不足していると、ボキャブラリーが増えないので、相手のボディランゲージも読めないようです。そういう意味、社会化不足は良くないので、ほかの子とどうしても遊べないという犬以外は、適度にドッグランなどに行つて交流を

持つてください。ただそのとき、あまり遊ばせすぎないように。犬にとつては、同じ犬と遊ぶ方が人間と遊ぶよりも楽しいですから、あまりに犬遊びを覚えてしまうと飼い主さんが2番になつてしまいます。遊ばせても飼い主さんの『帰るよ』の指示にパツと従うような関係を目指しましょう」

次に多頭飼いの場合です。B UHIでも何度か特集をしてますが、やはり2頭の相性がどうしても良くないという場合があるようです。これはコミュニケーションでどうにかなりませんか？

「なる場合と、ならない場合がありますね。そもそも多頭飼いで、一緒に寝たり、ボールで遊んだりという円満な関係の子のほうが少ないですよ。同じ空間にいられるのであれば十分なんです。それが例え、しよつちゅううなつたりしていても、十分に共存していると飼い主さん側はとらえなければなりません」

先生のお宅も先住犬の柴犬Aoiちゃんと、ベルジアンマリノアのMIYAちゃんがいますけど、やっぱり相性は悪いですか？  
「最初は同じ空間でフリーにさせ

ドッグトレーナーなおこさんが語る、コミュニケーション論

愛犬から見て、  
とても素敵なひと。

自分がいまどんな状況か分かれれば、改善のしようがある。  
ちょっとした気の持ちようで変わりますから。

るなんて全く無理でしたね。でも、半年くらいかけてだんだんとA0 iが許容してきました。今では仲間として認めて、群れとして深い関係を築いています。時々身体をくっつけて寝ることもあるくらいです。でもどうしても相性が悪い子同士もいますから、その場合は無理にくっつけようとせず、むしろ部屋を分けるくらいのことを飼い主さんがしてあげる必要があります」

——先住犬との上下関係の争いもありますか。

「最初は先住犬が上だったとしても、その犬が年をとって弱ってきたら、若い犬がのしあがろうとします。それは親子同士だとしてもそうです。人間は『お年寄りはいたわろう』という感覚ですが、そこは犬との文化の差で、仕方がないので。それでも犬同士の序列を崩したくない場合、そこで人間ができることは、弱っている姿を見せないように、別々の部屋で過ごさせることでしょうか。とにかく、どのコミュニケーションもそうですが、人間視点で文化のおしつけは避けるべきです」

——つい、人間の感覚で接して

まいますから、気をつけないと。コミュニケーションがうまくいかなければパターンとして、飼い主さんに原因がある場合、どんなことが考えられますか？ もし当てはまっていたら、考え直したいので、ズバリ教えてください！

「まず、甘やかしすぎるタイプです。すぐに『かわいそう』と思う人や、やたらに泣いたり心のコントロールができない飼い主さんには、周囲の環境に繊細な犬にとっては疲れる存在なんですよね。逆に、多少厳しくてもルールをきちんと決めて貫く飼い主さんは頼もしい存在ですよね」

——かわいそうだからと、厳しくしきれないのは逆効果なんですかね。

「はい。それから危機感不足の場合。しつけ教室でも『ここはお宅のワンコに必要なところですよ』と教えているときに限って、別のことをして聞いている（笑）。そんな飼い主さんって結構いるんですよ！他にも、たとえばパピーがサークルの中でジャンプしていいとします。それが柵の高さギリギリのところまできている場合に、『あと数か月で飛び出してしまうか

ら、今のうちにフタをしておこう』と考えられるか否か。想像力の問題ですね。それも危機感の一種だと言えるでしょう」

——お教室で愛ブヒにおやつをあげていたらトレーナーさんに「聞いていますか？」と注意を促される…そんなことがあります。確かに周りを見ても、よく質問をする飼い主さんのワンコの方が、しつけも行き届いている気が…。

「そうなんです。だから思うのは、人間同士のコミュニケーションが上手な人は、犬とも上手にコミュニケーションとれてるなって。愛犬の少しのボディランゲージの変化もキャッチしようという姿勢があります。それから集中力もコミュニケーションをとる上で大切な要素です。犬のサインに集中して、見逃さなければ、コミュニケーションはおのずととれてきます。犬の様子を見ないで、こちらの思えばかりを押しつけると、犬は攻撃に出るでしょう」

——耳が痛いです（笑）。

「自分がいまどんな状況か分かれば、改善のしようがあるから良いんですよ！ ちょっとの気の持ちようで変わりますから」





◎ 川野 梯子

アメリカ、カリフォルニア州にてドッグトレーナーのライセンスを取得。フランス人とアメリカ人訓練士のもとで、軍用犬、警察犬の服従訓練や、問題犬の矯正を学ぶ。現在、カワノe-ドッグの専属トレーナー。

◎ 株式会社カワノe-ドッグ

TEL : 03-3630-6275 <http://www.k-e-dog.com/>

犬の権利が認められるには、飼い主が犬に対して義務を果たす。それが「しつけ」だという「しつけ先進国」フランス流の考え方。カフェでくつろぐ主と足元でゆったりと過ごす愛犬との心地よい距離感。そんな犬文化ごと輸入したドッグ・トレーニング・スクールです。プロのしつけ経験も豊富！

「分かりました！ では総論的な部分に入りますが、『しつけ』とはそもそも何だと思われませんか？」

「その家のルールを教えることでしよう。ルールを教えるために練習をさせることです。また、何かを一緒にやりたいというときにできるようにするためのトレーニングもしつけの一環ですね。それには、まず最初に犬を観察することから始めます。犬の性格を引き出すのも飼い主さんの役目です。犬の様子に目を光らせ、何を考えているのかのサインを読み取る必要があります。よくしつけを入られる飼い主さんは、犬の変化にすぐに気づくんですよ。良くなった部分も、悪くなった部分も客観的に見られているんですね」

「かわいさ余って、つい飼い主観的に気持ちが入ってしまうことが多いのですが、客観的というところが大切なんですね。」

「主観が入ると、つい擬人化しなくなっちゃいますからね。例えば『玄関のチャイムが鳴ると吠えて困るんです。怖がついてるんです』という飼い主さんがいたとします。この会話の中でしつけをする上で

必要なのは『チャイムが鳴ると吠える』という客観的事実だけです。『怖がついてる』というのは、飼い主さんの予測、思いこみですね。逆に私が『そのときの愛犬の耳や尻尾はどうなっていますか？』と聞いても、意外に分らない場合が多い。結局、愛犬を客観的に見てあげられないということなんです。トレーニングをする上で必要なのは、犬のシグナルという客観的事実ですから、そこをきちんと押さえて、トレーナーに相談するというのが問題解決への近道なんです」

人間でもコミュニケーションをとるときは『相手を知ること』から始めますもんね。毎日のことです。当たり前のように流している癖も、もう一度見直してみようと思います。

「それから、愛犬に常に魅力的だと思われるには、いろんな遊び方、接し方の引出しを作るのもポイントです。意外性ですね。人間でも意外性のある人にひきつけられますよね。特にフレンチブルの場合、甘えたいだけの犬種とは違いますし、独立心も強いので、自分と同じくらいアクティブな遊び相手

を求めます。だから、遊ぶ時は犬よりも早く動いてください！ いつも同じボール遊びではなく、飽きさせないように、コミュニケーションの取り方も豊富にバリエーションを持っていて良いですね。そして、もつと飼い主さんも動物的にはじめて、面白い遊びや動きを考えたんです！ 恥ずかしがらずに、それができる飼い主さんは、愛犬から見ても素敵なんですから！ ヒントとしては、愛犬がドッグランでどんな子と遊んでいるか。このあたりに、その愛犬がどんなことを楽しいと思うかというポイントが隠されているでしょう。誰でも厳しい飼い主さんにはある程度なことが出来ます。でも甘やかしてはいない、本当の意味での楽しい飼い主さんになるように、工夫してみてください！ それがコミュニケーションの原点です」

ドッグトレーナーなおこさんが語る、コミュニケーション論

愛犬から見て、とても素敵なひと。

犬は家族の一員となり、大切なパートナーとなる存在。そのパートナー選びは、本来とても重要でじっくり時間をかけて選ぶなくてはいけないのだと思う。ひよつとしたら人間のパートナー選びよりもじっくり考えるべきかもしれない。

人間同士なら「目が合ったから」「直感で」というような、きつかけも有りかもしれないけれど、犬の場合、そのようなきつかけによる選び方は実は大変危険である。

目が合っただけで目惚れが出会いのきつかけだった現在の愛犬と、もしも現在関係が良好の場合、それはとても運が良かったと思われれます。

もちろん個体差はあるものの、純血種ならその犬種が生まれた歴史があり、それぞれ気質、行動に特徴がある。混血種でも、もともと何の犬種が入っているかによって気質、行動に違いが出る。

例えばアメリカカリフォルニアのシエラでは、何の犬種が入っているかと予測されるか、入っている可能性が高い犬種から順に7種類程の犬種名がリストアップされている所も多い。

長い時間を一緒に快適に過ごすパー

トナーだからこそ、外見だけを見るのではなく、飼いたい犬種の特徴や歴史をしつかり事前に勉強し、本当に自分のライフスタイル、自分の性格に合っている犬なのかを考える必要があるだろう。

今まで私がトレーニングを担当させて頂いていたケースの中で、よくある犬種と問題行動のベスト3は下記である。

1. コーギー、ボーダーコリー、シエラティーの自転車、バイク追い
2. 柴犬のブラッシングやケアの際の噛み付き行動
3. ジャックラッセルテリアの他犬への攻撃性

これらは、決して上記の犬種が上記の問題行動を持つという事ではない。あくまでも飼い主が犬種の特性を生かすために起こる問題行動である。

例えば、コーギーやボーダーコリーシエラティー等は、牛を追ったり、羊を追う事を目的として作られ、家庭犬としてはそれらの能力は必要としなくとも、長い歴史をかけて作られた特性その作業意欲のDNAは強く濃く受け継がれている場合が多い。

家庭犬として生活するには、羊も牛も追う必要は無い。しかし強く刻まれ

残された特性は、残念ながら羊の居ない都市生活では自転車やバイク等を追う(吠える)行動に変換されてしまう。運動量を必要とする犬種だから、ただ運動させれば良いかというところだけでは、牧羊犬達は満足しない。身体だけではなく、頭(メンタル部分)も満足させないとエネルギーを持って余し、彼らとの生活は上手くゆかないのだ。

飼い主さんもアクティブで、スポーツ好きで犬と一緒にスポーツを楽しめる人じゃないと、この犬種を飼うのは向かない。

そして次に多い柴犬の攻撃行動。柴犬は子犬の頃はとても親しみやすいが、成犬になるにつれ独立心に満ち溢れ、人間との濃密な接触を好まなくなってくる。犬を膝に抱っこしてベタベタしたいという思いで柴犬を飼うと、飼い主の思いと柴犬の思いがチグハグになりいつの間にかコミュニケーションが円滑にゆかなくなる。飼い主を信用しなくなり日常のケアも段々させてくれなくなる程、お互いの心が離れてしまう。「猫を飼うように柴犬を飼う」というぐらいの距離感が必要。

ジャックラッセルテリアも、外見からは想像出来ないぐらい素晴らしい身体能力の持ち主である。身体は小さい

が大型犬並の体力があるので、これらのエネルギーを満たしてあげないと他犬へ攻撃したり、家中を荒らしたり、子供を追い掛け回したり、吠えたりと困った行動を繰り返すようになる。

こちらにも、ただのんびりと犬と生活したいインドア派の飼い主さんには向かず、アクティブじゃないと飼い主と犬のミスマッチが起こる。

ところでBUHI(フレンチブルドッグ)は?

もしかしたらBUHIを飼った理由は「外見が好き」という方が多いかもしれない。あの何ともいえない愛らしい外見に惹かれてしまっているが、彼らは小さなトラック並に、どんな犬にもどんな人にもお構いなしで突進してゆき、相手の気持ちなんか関係なく、もちろん空気をなんて読まない。

好奇心旺盛なBUHIをコントロールするには、飼い主さんが相当楽しい魅力的な存在にならないと、彼らはすぐに退屈になって自分で他の遊び相手を探しに行ってしまう。

犬種の特性を理解し、自分のライフスタイルに合った犬を選び、そして、彼らの能力をどうやって生かし、どうやってエネルギーを適切な方向に向けさせてあげるかを考えてあげる事もとても大切な事だと思います。

「犬種の特性を考える」

川野 遼子  
アメリカ、カリフォルニア州にてドッグトレーナーのライセンスを取得。フランス人とアメリカ人訓練士のもとで、軍用犬、警察犬の服従訓練や、問題犬の矯正を学ぶ。現在、カワノ e-ドッグの専属ドッグトレーナー。

★株式会社カワノ e-ドッグ  
☎03-3630-6725 Fax 020-4623-6423 http://www.k-e-dog.com/

犬の権利が認められるには、飼い主が犬に対して義務を果たす。それが「しつけ」だという「しつけ先進国」フランス流の考え方。カフェでくつろぐ主と尻元でゆったりと過ごす愛犬との心地よい距離感。そんな犬文化ごと輸入したドッグ・トレーニング・スクールです。

